



Left:三浦信男《魚の群》2017年 作家蔵 Right:三浦信男《明石城》2019年 作家蔵

SHIGOSEN+ART

「子午線上のアート」展

三浦信男★吉田稔美

2021.12.18 (土) > 2022.3.21 (月・祝) 休館日:月曜日(祝日の場合は翌日)と祝日の翌日
※年末年始(12月29日(水)~1月3日(月))

10:00 >>> 17:00 入館 16:30 まで

主催 | 西脇市岡之山美術館 ((公財)西脇市文化・スポーツ振興財団)
後援 | 西脇市、西脇市教育委員会、西脇市観光協会、明石市、明石市教育委員会、一般社団法人明石観光協会
協力 | 株式会社くるとみや、神戸芸術工科大学山崎均研究室

入館料 | 大人 300円 (250円) シルバー 250円 (200円)
高大生 200円 (150円) 小中生 100円 (70円)

※()内20名以上の団体割引料金 ※障がい者割引有 ※コロナカード利用可
※65歳以上の方は、年齢確認のできるものをご提示ください。
※テラ・ドームとの共通券有

イベント・ワークショップ等 詳細は決定次第ホームページ等でお知らせします。 <http://www.nishiwaki-cs.or.jp/okanoyama-museum/>

チラシ表
三浦信男《星空と天文科学館》2018年 作家蔵
吉田稔美《ユライカ・タルホ》2006年 作家蔵
Photo by Hiroto Onodera

吉田稔美
《銀河鉄道の子午線》2004年
作家蔵
Photo by Shoji Ohnuma



《銀河鉄道の子午線》(のぞきシーン) Photo by Toshimi Yoshida

子午線(日本標準時子午線)は、兵庫県西脇市や明石市を含めた兵庫県内9市県外3市を南北に貫いています。ちょうど西脇市は東経135度と北緯35度が交差し、日本列島の中心にあたることから「日本のへそ」と呼ばれ親しまれています。

西脇市岡之山美術館では、この度「子午線のまち」に注目し、子午線の通る多彩な地域のゆかりの芸術家と、子午線をテーマにした作品を展示いたします。

本展は、西脇市と明石市に注目し、西脇市からは、1977年市政25周年公募「日本のへそ」シンボルマークを手掛け、1999年には「イタリア・ポローニャ国際絵本原画展」に入選するなど、イラストレーター、絵本作家として国内外で活躍中の吉田稔美による、遠近法と被写界深度を利用したユニークで不思議なビープショー(のぞきからくり)の作品を展示します。

また、日本の標準時となる東経135度の子午線が通ることから「時のまち」として知られる明石市に暮らし、優しいタッチと豊かな色彩による明石市の風物や、子午線上に建つ明石市立天文科学館の時計塔を描く画家三浦信男の絵画の仕事を紹介します。

これらの子午線上のまちの様々な斬新なアートと表現を通じて、子午線のイメージを大切に育む多彩な地域と文化に親しみ、個性豊かな「子午線のまち」の魅力を紹介します。

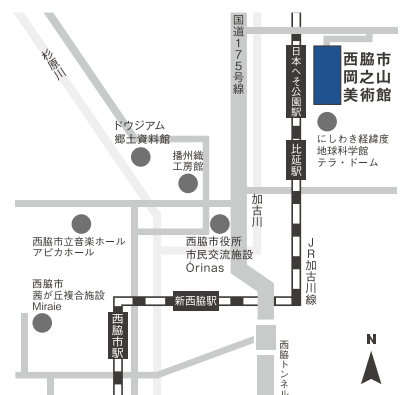


吉田稔美デザイン日本のへもんシンボルマーク入り「西脇市マンホール」(日本へそ公園内)

公益財団法人 西脇市文化・スポーツ振興財団 西脇市岡之山美術館

〒677-0039 兵庫県西脇市上比延町345-1
東経135度北緯35度交差点日本へそ公園内
Tel/Fax | 0795-23-6223
E-mail | okanoyamamuseum@galaxy.ocn.ne.jp
<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/okanoyama-museum/>

アクセス
電 車 | JR加古川線「日本へそ公園」駅前行
バ ス | 大阪・三宮から神姫バス(西脇行き)
「西脇(アピカ)」からタクシー10分
自動車 | 中国自動車道・滝野社ICから15分



吉田稔美《ユライカ・タルホ》(のぞきシーン) 2006年 Photo by Hiroto Onodera